

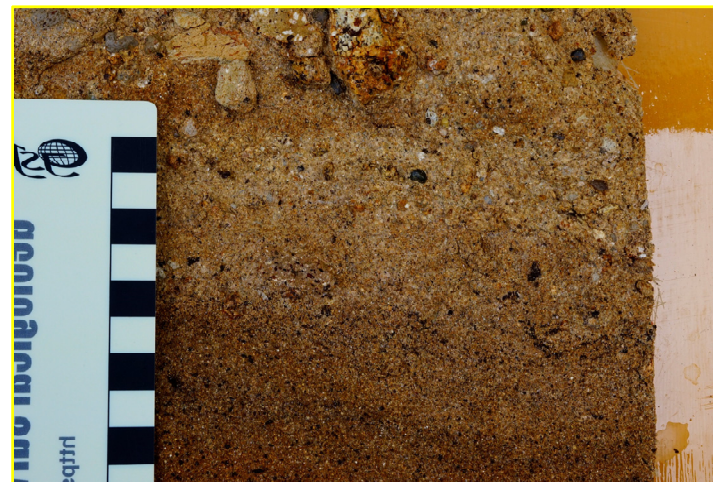
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts2ユニット 堆積相観察-Ts2ユニットはぎとり転写試料②(2/2) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

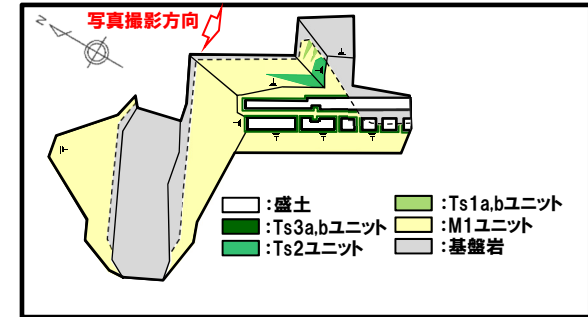
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts1aユニット及びTs1bユニット 堆積相観察-はぎとり転写試料作成位置(1/2)-

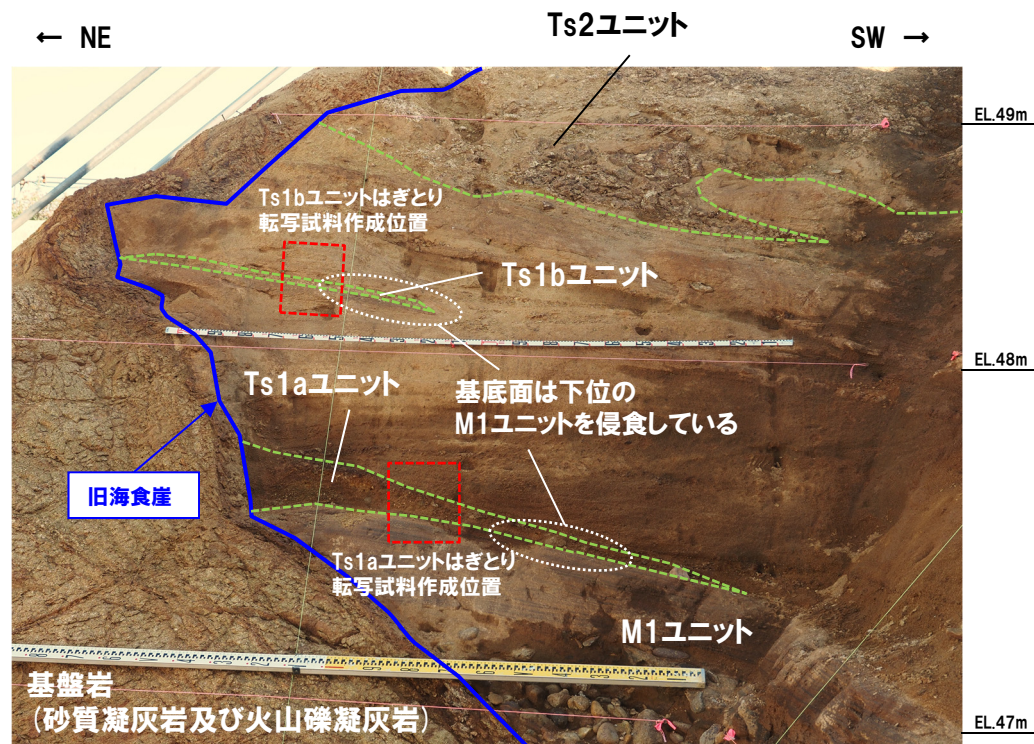
一部修正 (R2/8/7審査会合)

○南側壁面の背後法面においては、Ts1aユニット及びTs1bユニットが分布しており、以下の特徴が認められる。

- ・淡褐灰色を呈する礫質砂である
- ・旧海食崖を形成する基盤岩由来の礫が認められる
- ・基底面は下位のM1ユニットを侵食している



開削調査箇所(南側)平面模式図

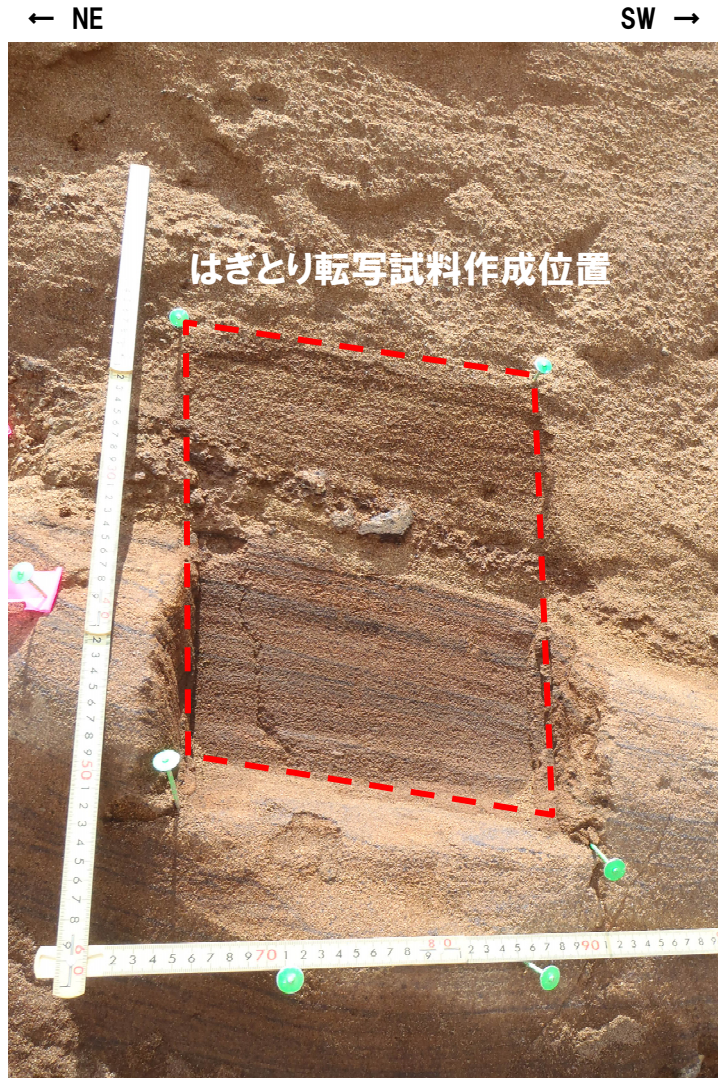


壁面写真

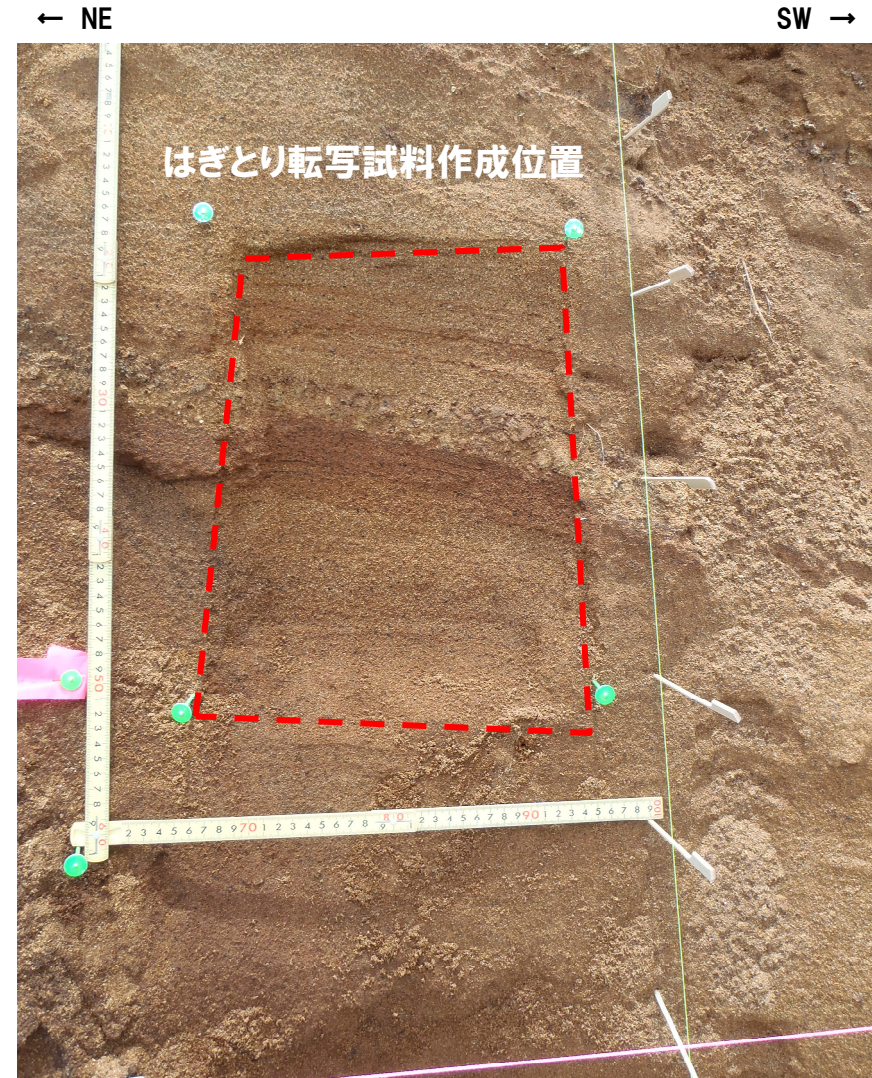
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts1aユニット及びTs1bユニット 堆積相観察-はぎとり転写試料作成位置(2/2) -

一部修正(R2/8/7審査会合)



Ts1aユニットはぎとり転写試料作成位置



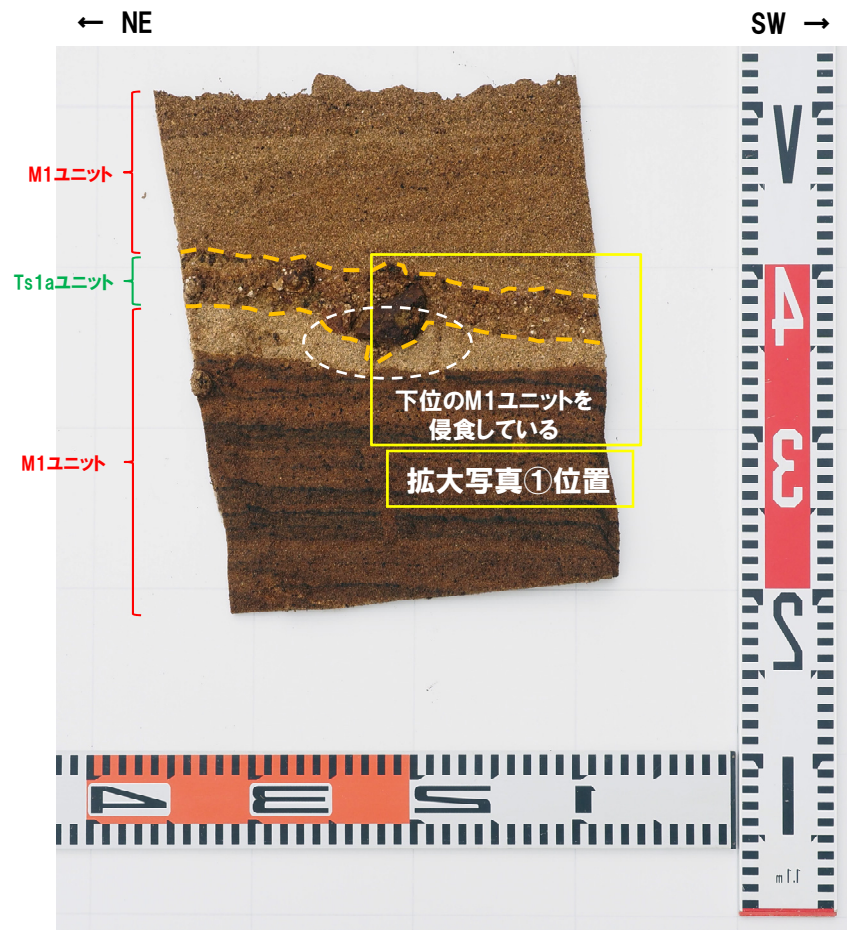
Ts1bユニットはぎとり転写試料作成位置

(1)地層区分及びユニット区分

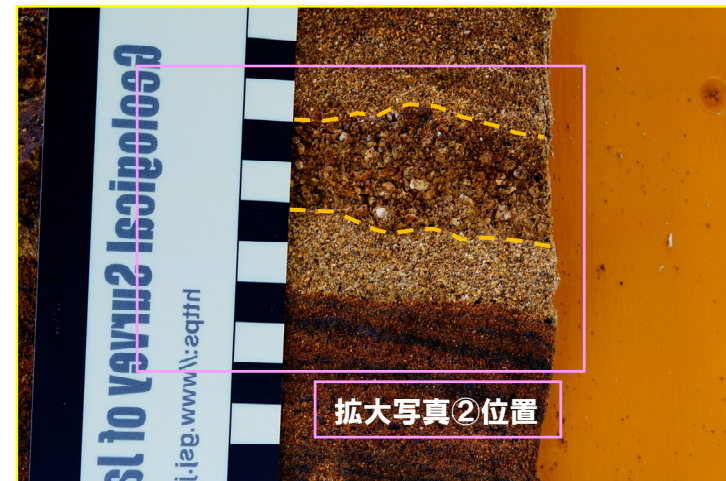
②-2 Ts1aユニット 堆積相観察-Ts1aユニットはぎとり転写試料(1/2) -

一部修正(R2/8/7審査会合)

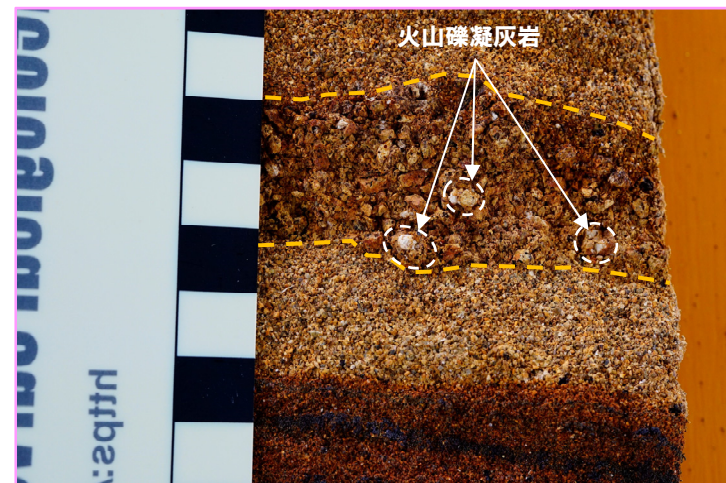
- M1ユニットは、明褐灰～暗褐灰色を呈する砂で、中粒砂からなり、淘汰が良い。平行葉理が発達する。
- Ts1aユニットは、淡褐灰色を呈する礫質砂で、下位のM1ユニットを侵食している。旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫(約10mm以下主体)が認められる。



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

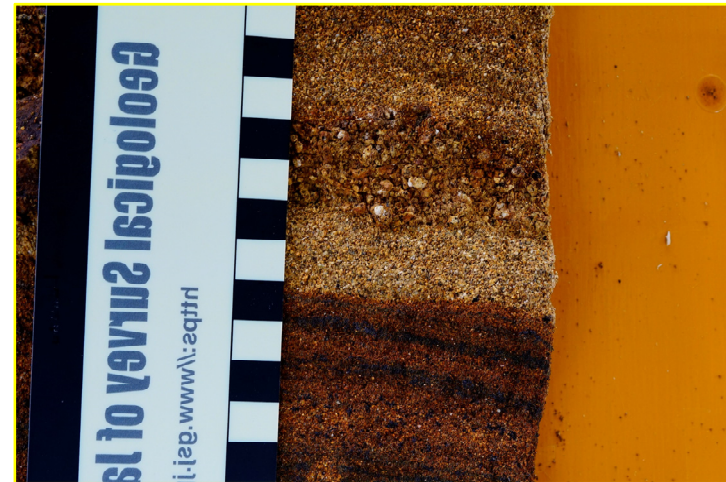
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts1aユニット 堆積相観察-Ts1aユニットはぎとり転写試料(2/2) -

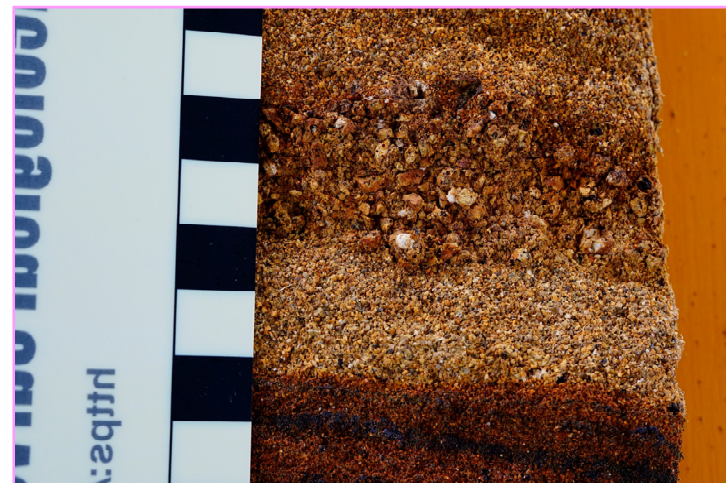
一部修正(R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



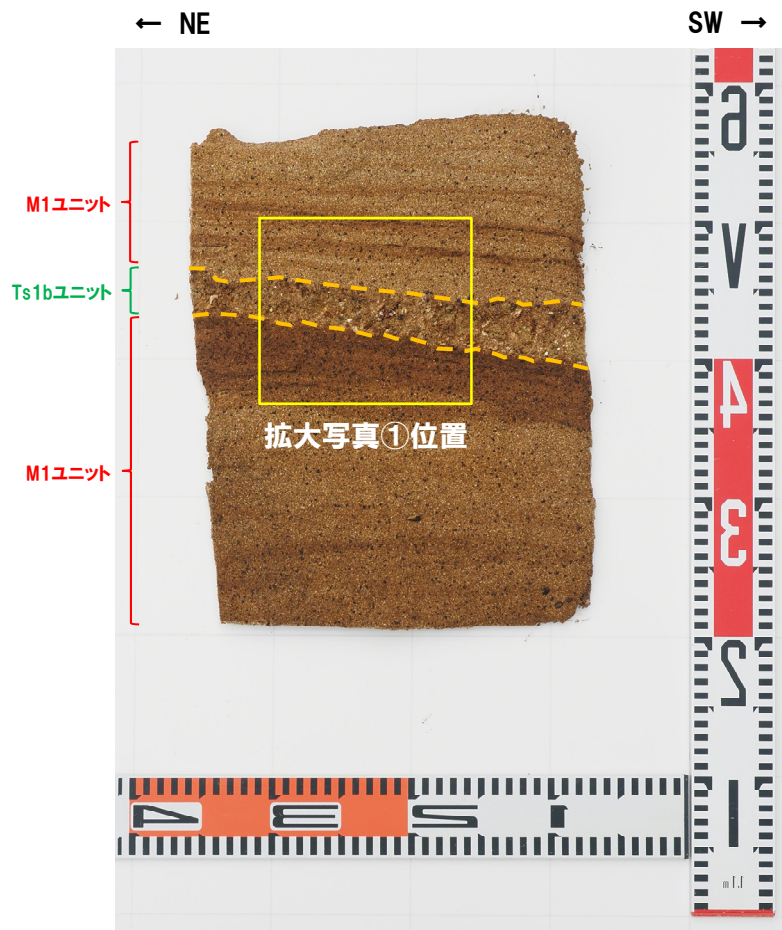
拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

(1)地層区分及びユニット区分

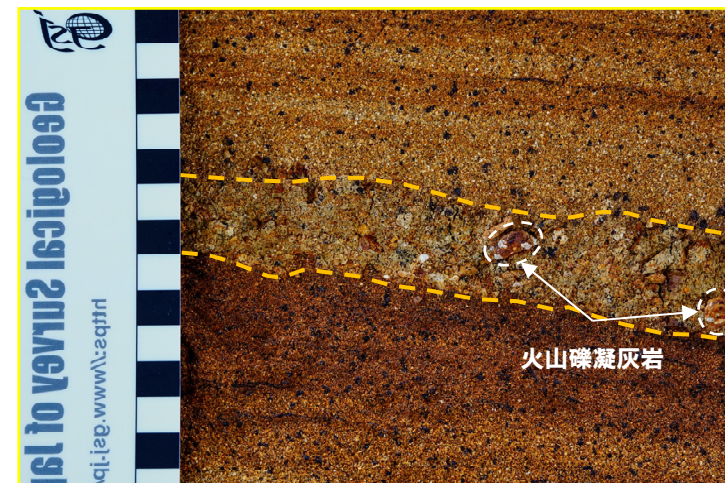
②-2 Ts1bユニット 堆積相観察-Ts1bユニットはぎとり転写試料(1/2) -

一部修正(R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。平行葉理が発達する。
- Ts1bユニットは、淡褐灰色を呈する礫質砂で、下位のM1ユニットを侵食している。旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫(約10mm以下主体)が認められる。



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)

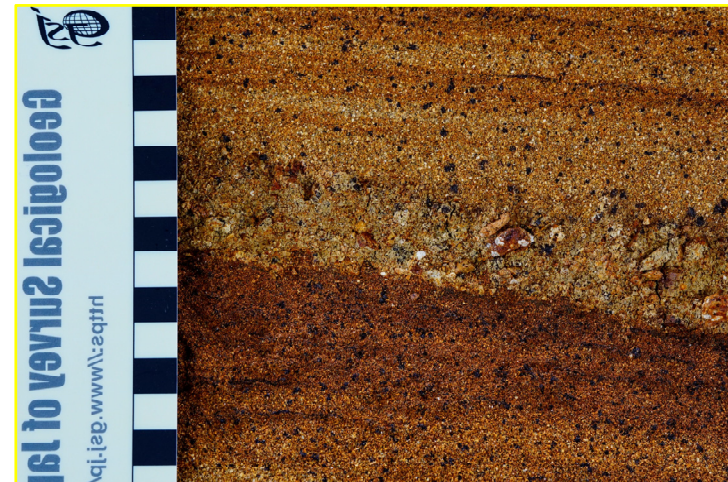
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts1bユニット 堆積相観察-Ts1bユニットはぎとり転写試料(2/2) -

一部修正(R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



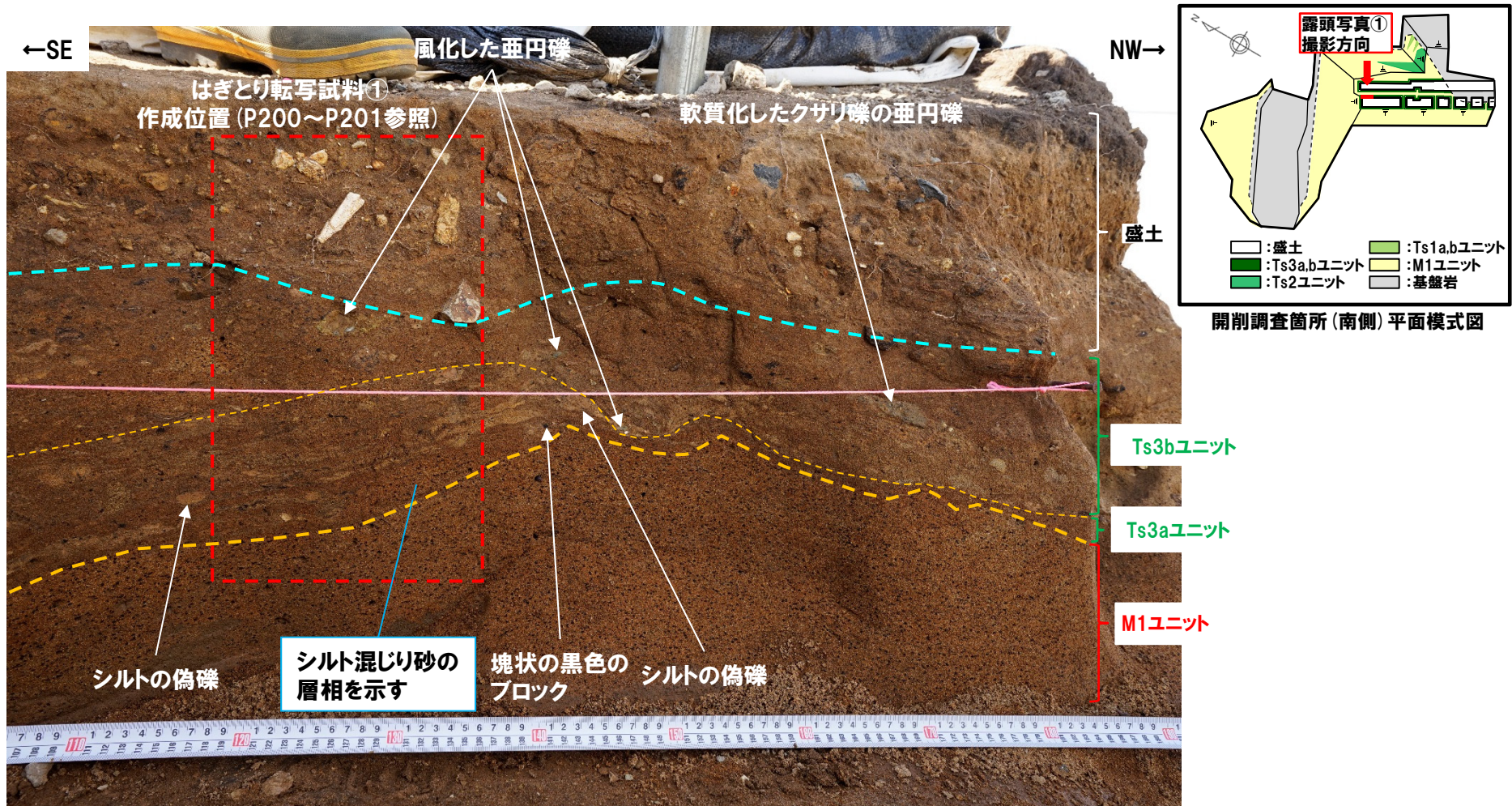
拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (1/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)

- 南側壁面の背後法面天端付近においては、M1ユニット、下位のM1ユニットを侵食して堆積する斜面堆積物であるTs3a及びTs3bユニット並びに盛土が連続して分布する(下写真参照)。
- 南側壁面の背後法面天端付近のTs3a及びTs3bユニットについて、南側壁面との連続性を確認した。



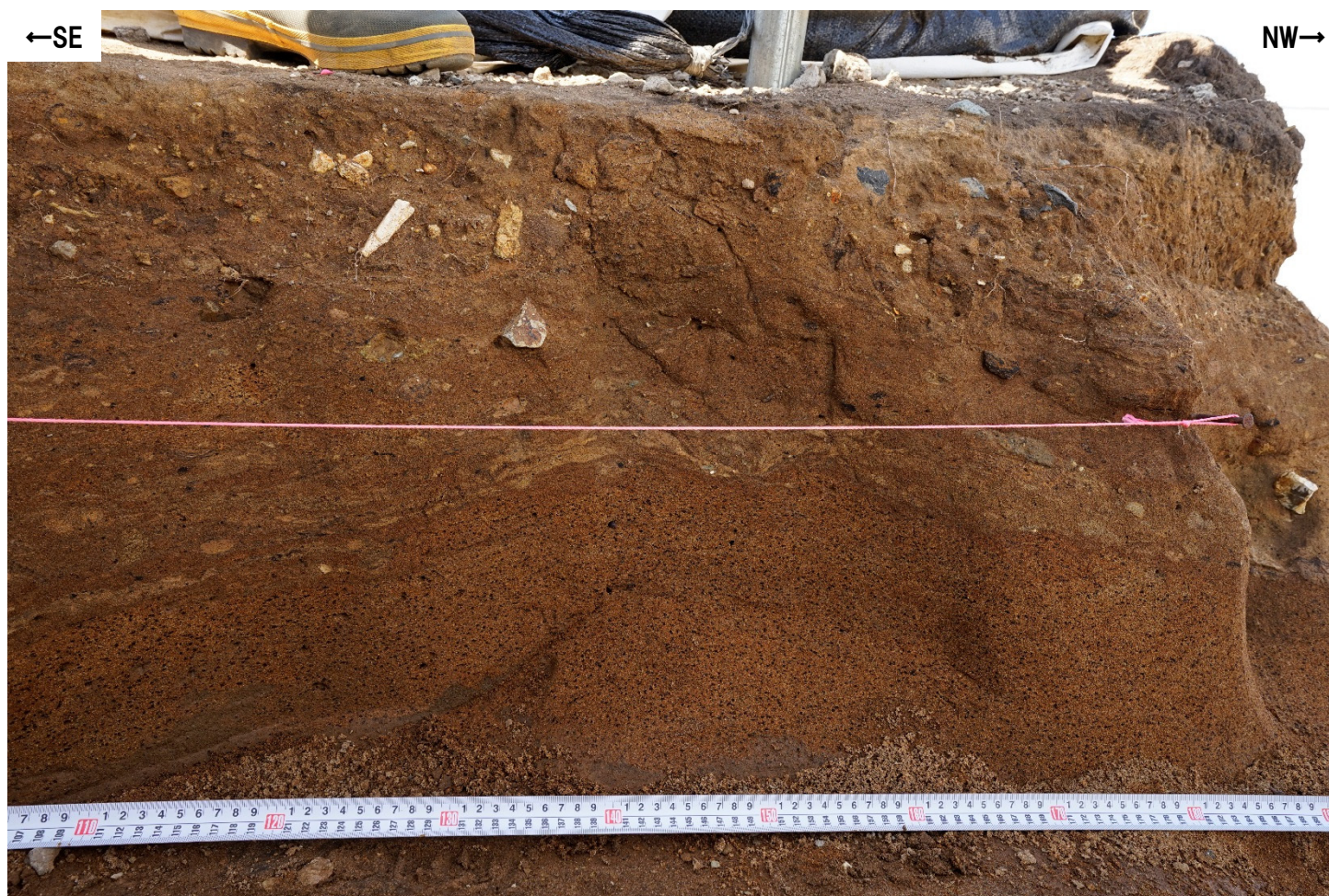
露頭写真①(側溝設置跡(海側壁面)を望む(解釈線あり))

令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (2/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



露頭写真①(側溝設置跡(海側壁面)を望む(解釈線なし))

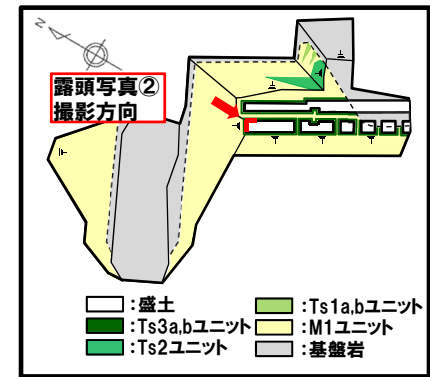
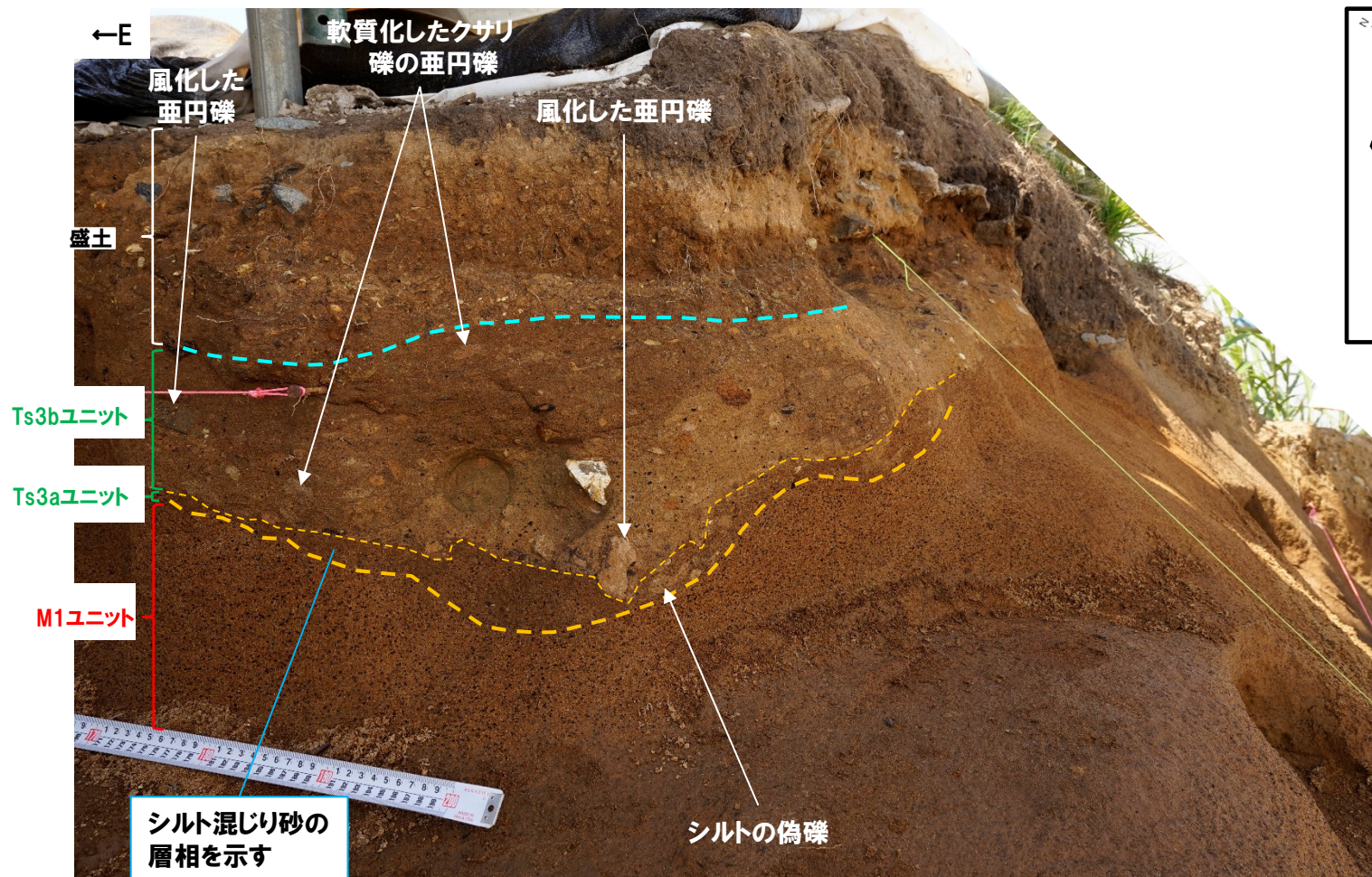
令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (3/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)

- 南側壁面の背後法面天端付近において認められるTs3aユニットは、側溝設置跡(海側壁面)及び南側壁面の接合部付近において、シルト混じり砂で、シルトの偽礫が認められる。
- また、Ts3aユニットは、下位のM1ユニットと明瞭に異なる層相を示すことから、M1ユニットと区別され、また、基底面(下位のM1ユニットを侵食する侵食面)が連続することから、南側壁面への連続した分布が認められる。
- Ts3bユニットは、当該範囲において、礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められ、南側壁面へ連続する。



開削調査箇所(南側)平面模式図

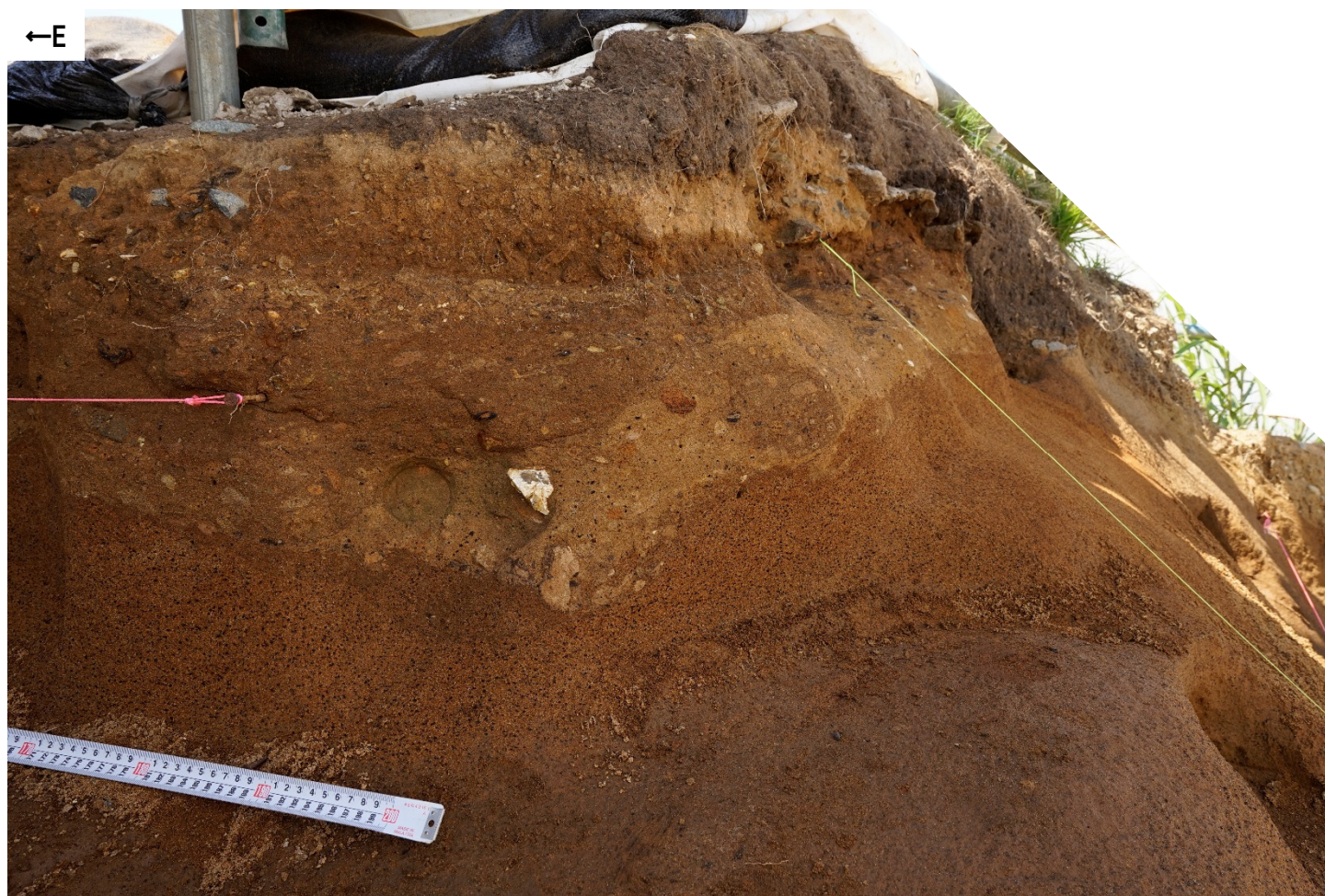
露頭写真②(南側壁面及び側溝設置跡(海側壁面)の接合部を望む(解釈線あり))

令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性(4/10)

一部修正(R2/8/7審査会合)



露頭写真②(南側壁面及び側溝設置跡(海側壁面)の接合部を望む(解釈線なし))

令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

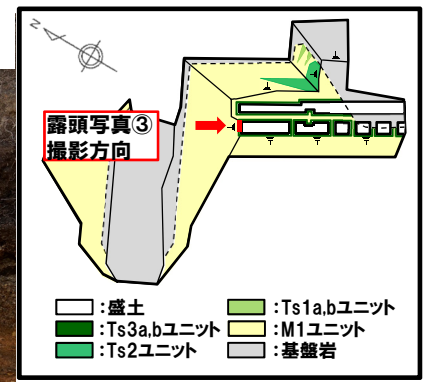
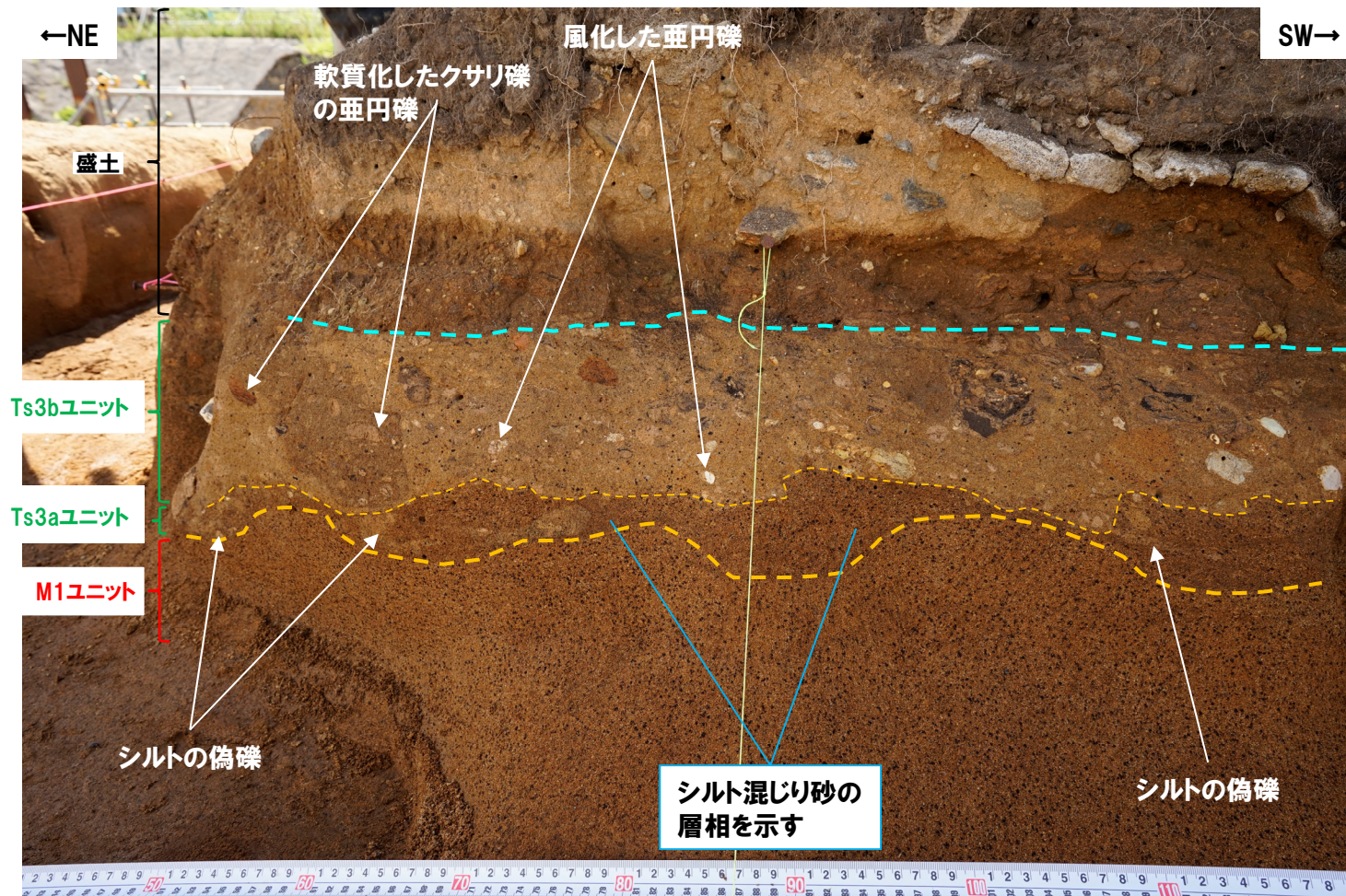
②-3 南側壁面との連続性 (5/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)

○南側壁面において認められるTs3a及びTs3bユニットの特徴は以下のとおりであり、背後法面の天端付近に認められる各堆積物と同様の特徴が認められる。

- ・Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、シルトの偽礫が認められる。
- ・Ts3bユニットは、淡褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められる。

(P232へ続く)



開削調査箇所(南側)平面模式図

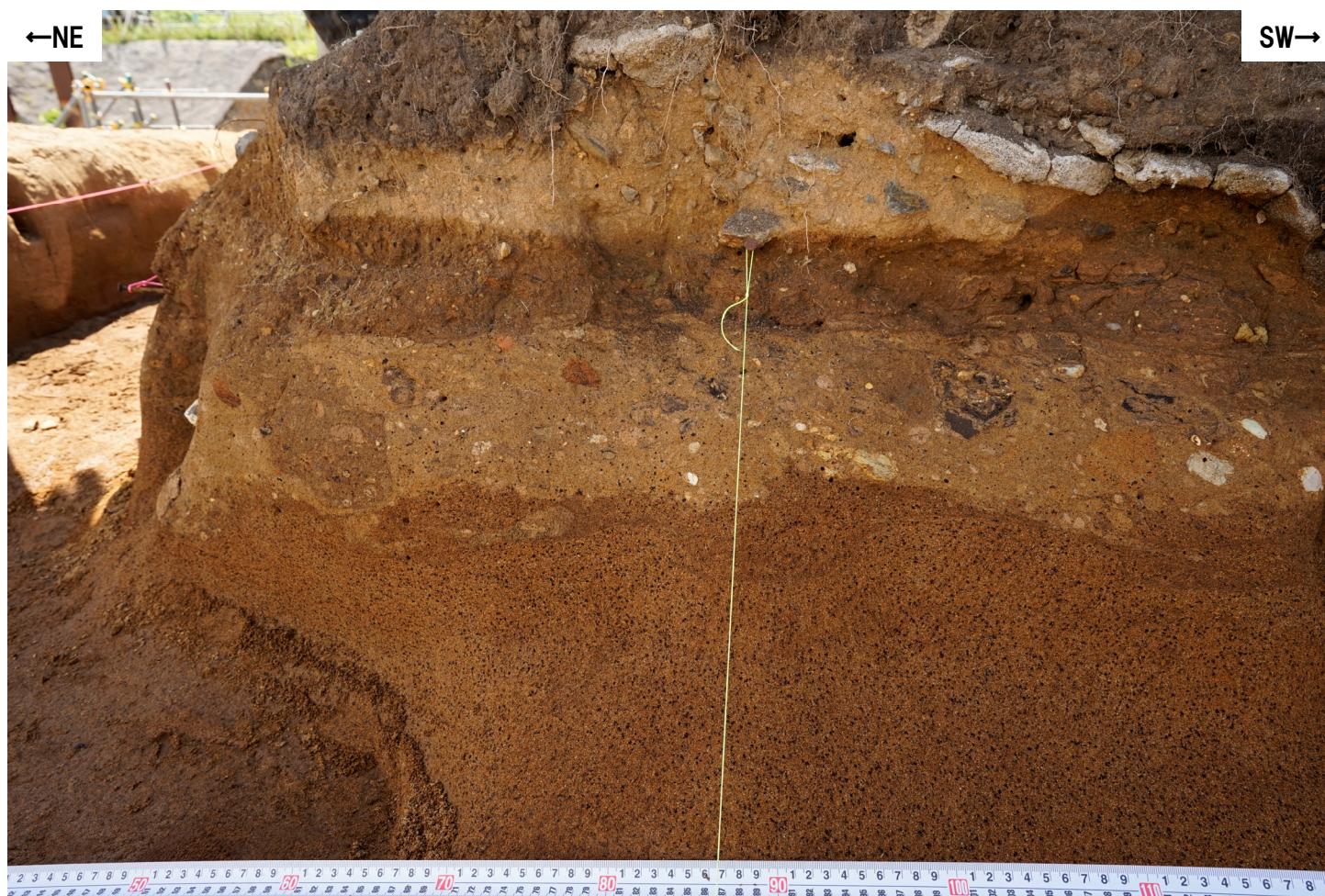
露頭写真③(南側壁面を望む(解釈線あり))

令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (6/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



露頭写真③(南側壁面を望む(解釈線なし))

令和2年7月撮影

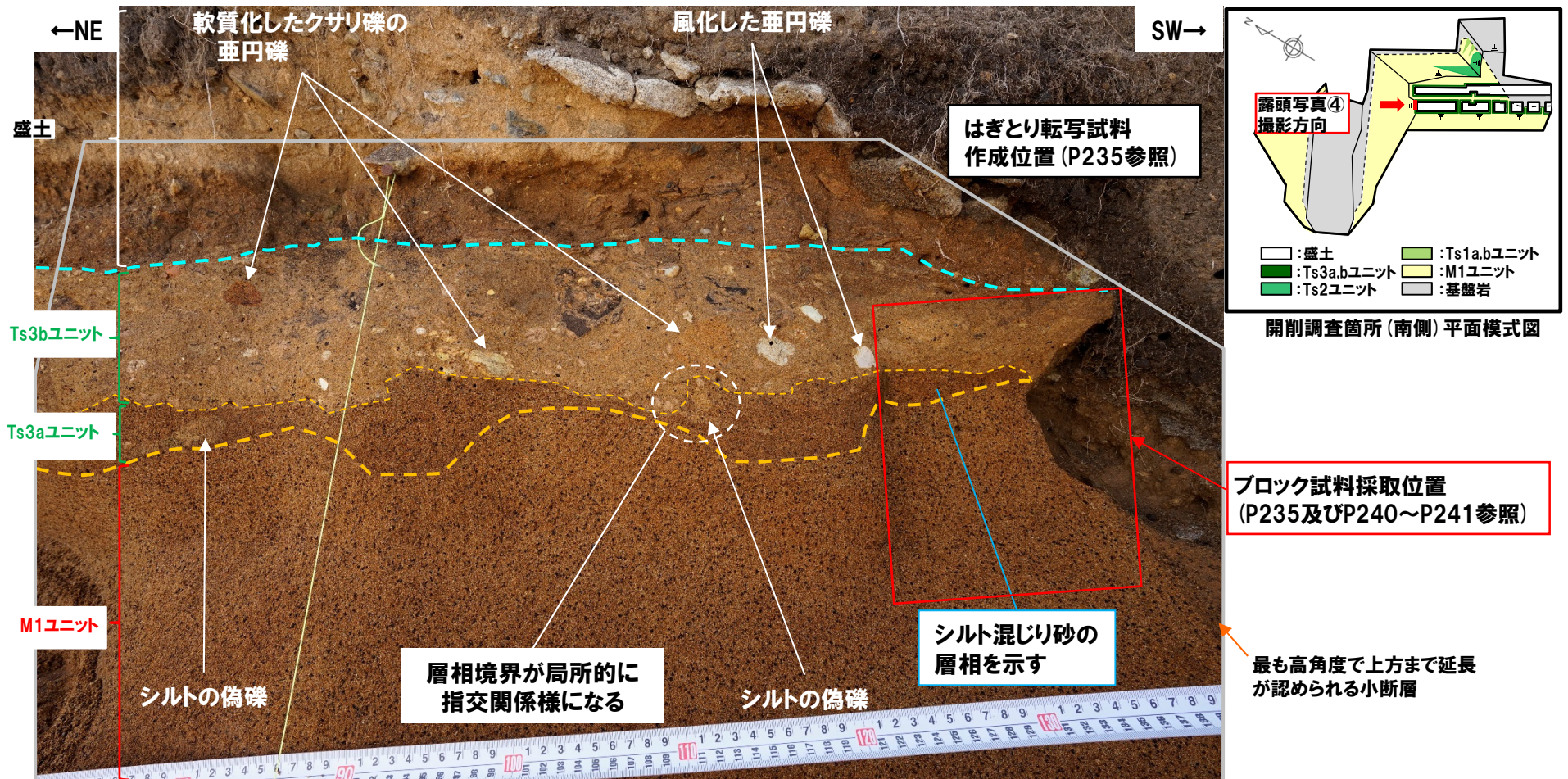
(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (7/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)

(P230からの続き)

- 南側壁面において、Ts3a及びTs3bユニットは連続した分布が認められる。
- Ts3aユニットは、シルト混じり砂であること及びシルトの偽礫が認められることから、下位のM1ユニットと明瞭な層相の差異が認められ、その層相境界は明瞭である。
- Ts3bユニットは、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められることから、Ts3aユニットと層相の差異が認められるものの、その層相境界は、局所的に指交関係様であることから、明瞭ではない。



露頭写真④(南側壁面を望む(解釈線あり))

令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (8/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



露頭写真④(南側壁面を望む(解釈線なし))

令和2年7月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

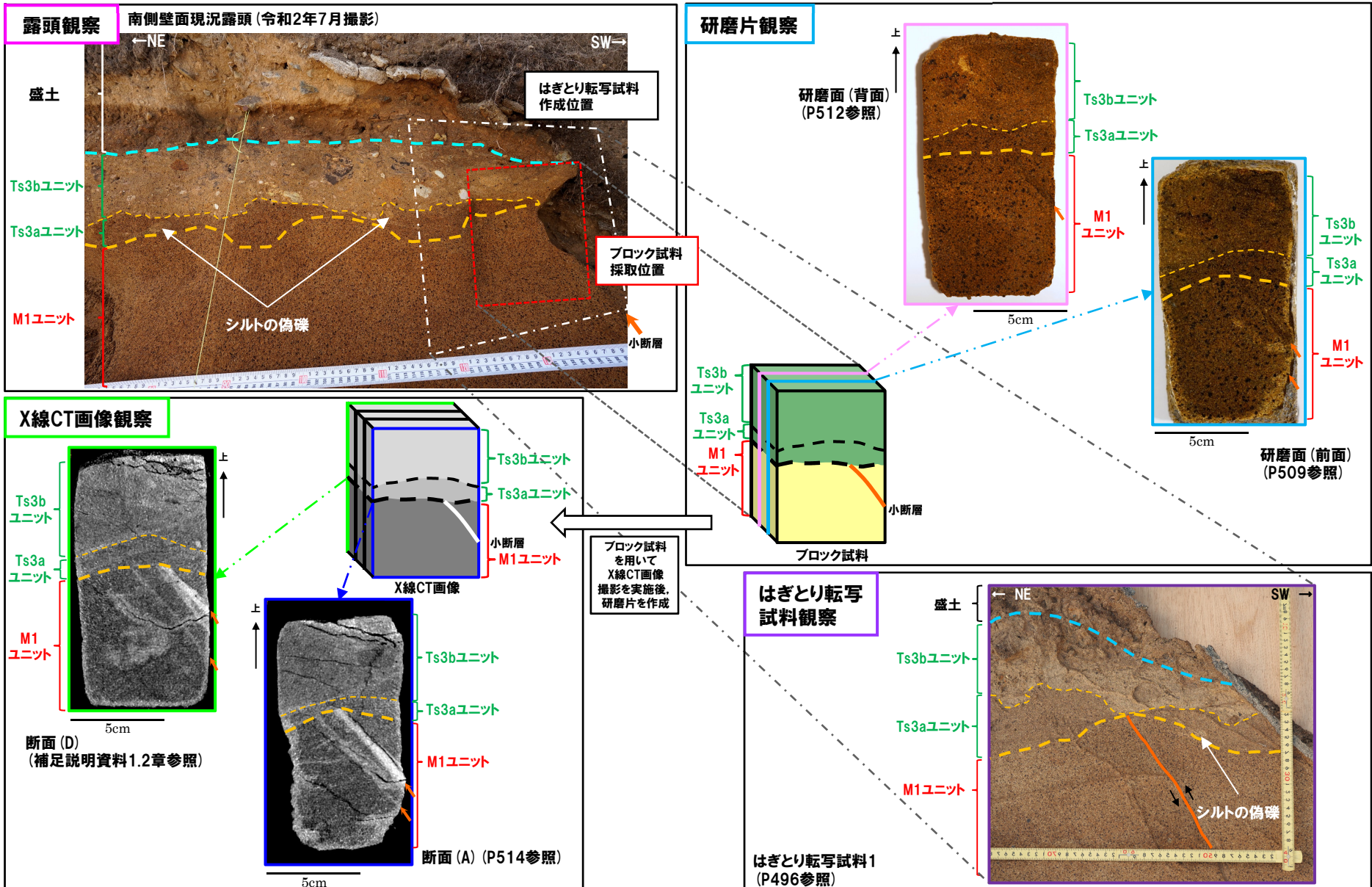
②-3 南側壁面との連続性(9/10)

- 南側壁面におけるはぎとり転写試料観察の結果、最も高角度で上方まで延長が認められるM1ユニット中の小断層(N20° W/50° W)は、M1ユニットを侵食するTs3bユニットの基底面まで連続し、その奥行き方向で採取したブロック試料における研磨片観察及びX線CT画像観察の結果、同小断層は、M1ユニットを侵食するTs3aユニットの基底面まで連続する状況が認められる。
- なお、Ts3aユニット及びTs3bユニットと小断層の上端部との関係については、後述する5.2.2章参照。

(1)地層区分及びユニット区分

②-3 南側壁面との連続性 (10/10)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



(1)地層区分及びユニット区分

③各種観察・分析・測定結果(1/3)

- 本調査箇所に認められる各堆積物及び盛土について、各種観察・分析・測定を実施した。
- 結果を次頁～P238の表に示す。

【Ts3ユニットの特徴】

- Ts3ユニットは、下位のM1ユニット及び上位の盛土とは明確に区別される。
- Ts3ユニットは、M1ユニットに挟在し、旧海食崖の局所的な崩落により堆積した斜面堆積物であるTs1ユニット及びTs2ユニットと、同様な特徴が認められる(下表及び次頁～P238参照)。

各種観察・分析・測定項目	Ts3ユニットとTs1ユニット及びTs2ユニットに認められる共通の特徴
薄片観察	<ul style="list-style-type: none"> ・角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる ・粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められる ・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の礫が認められる
礫種・礫の形状調査	<ul style="list-style-type: none"> ・旧海食崖を形成する基盤岩由来の礫が認められる ・礫の円磨度は、M1ユニット下部に認められる砂礫層中の礫と比較して、値が低い傾向が認められる
火山ガラスの屈折率測定・主成分分析	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺火山灰(Toya)に対比される火山ガラスは認められない
重鉱物の屈折率測定・主成分分析	<ul style="list-style-type: none"> ・重鉱物の屈折率は、概ね同様な範囲にブロードな頻度分布を呈し、特有なピークは認められない ・重鉱物の主元素組成の各分布範囲は、概ね同様である
斜長石の屈折率測定・主成分分析	<ul style="list-style-type: none"> ・主に中性斜長石の範囲を示すものが多い

- Ts3ユニットは、各種観察・分析・測定において、Ts1ユニット及びTs2ユニットと同様な特徴が認められることを踏まえると、斜面堆積物であると考えられる。
- なお、Ts3ユニットについては、以下の状況が認められる。
 - ・Ts3ユニットの下部(Ts3aユニット)と上部(Ts3bユニット)は、どちらもシルト混じり砂を主体とするが、上部には礫が多く認められる点において異なる。
 - ・上部(Ts3bユニット)は、Ts1ユニット及びTs2ユニットと類似した特徴を示す。
 - ・下部(Ts3aユニット)は、X線CT画像観察、薄片観察及び硬度測定の結果、Ts3bユニットとM1ユニットの中間的な特徴が認められる。
- このため、Ts3bユニットは、旧海食崖の局所的な崩落により堆積した斜面堆積物であると判断される。

(1)地層区分及びユニット区分

③各種観察・分析・測定結果(2/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

開削調査箇所(南側)における各種観察・分析・測定結果(1/2)

地層区分	ユニット区分	研磨片観察	X線CT画像観察	薄片観察			礫種・礫の形状調査※2	
				碎屑物粒子	粒子間の状況	その他	礫種	礫の形状
盛土	-	-	-	・角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じる	・粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が多く認められ、局所的に卓越して多い箇所が認められる	・粒子の形状及び粒径等が変化に富み、不均質な性状を示す ・水平方向に連続する空隙が認められる	-	-
斜面堆積物	Ts3	・シルト混じり砂※1 ・Ts3aユニットに比べ、シルトがやや多い	・全体として高いCT値を示し、比較的均一である	・角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる	・粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ、局所的に濃集する	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の亜角～亜円礫が認められる	・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(砂質凝灰岩礫)	・球形度の平均値:0.67 ・円磨度の平均値:0.36 ・円磨度は、M1ユニット下部の砂礫層中の礫と比較して、値が低い傾向が認められる
	Ts3a	・シルト混じり砂 ・Ts3bユニットに比べ、ややシルトが少ない	・M1ユニットとTs3bユニットの中間的な特徴が認められる	・丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる	・粒子間に少量の粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められる	-	-	-
海成堆積物	M1	・淘汰が良い砂	・全体として低いCT値を示すが、バラつきが認められる	・丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、粒子の縁に泥粒径の碎屑物がわずかに認められる	・粒子間には空隙となっており、粘土鉱物は認められない	・粒子の縁及び粒子間に酸化鉄の沈着が認められる 【EPMA分析】 ・堆積物中に認められる不透明鉱物は、チタン鉄鉱に同定される	・主要構成礫 ⇒安山岩礫	・球形度の平均値:0.59～0.62 ・円磨度の平均値:0.58～0.62 ・円磨度は、Ts1ユニット、Ts2ユニット及びTs3bユニットと比較して、値が高い傾向が認められる
斜面堆積物	Ts2	-	-	・角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる	・粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められる	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫及び岩片が認められる	・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(砂質凝灰岩礫) 珪質岩礫	・球形度の平均値:0.62 ・円磨度の平均値:0.47 ・円磨度は、M1ユニット下部の砂礫層中の礫と比較して、値が低い傾向が認められる
	Ts1 (Ts1a及びTs1b)	-	-	・粘土鉱物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物がわずかに混じる	-	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫が認められる	・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(火山礫凝灰岩礫)	・球形度の平均値:0.63 ・円磨度の平均値:0.29 ・円磨度は、M1ユニット下部の砂礫層中の礫と比較して、値が低い傾向が認められる

青書きはTs3ユニットと異なる特徴
朱書きはTs3ユニットと同様な特徴

※1 露頭観察においては、礫混じりシルト混じり砂の層相を呈するが、本研磨片においては、礫が認められないことから、シルト混じり砂と記載している。
※2 開削調査箇所(北側)の東側に位置する追加調査箇所(北側)に認められるM1ユニットに挟む斜面堆積物についても、当該調査を実施しており、Ts3bユニットと同様な特徴が認められる(詳細は、補足説明資料1.1章参照)。

(1)地層区分及びユニット区分

③各種観察・分析・測定結果(3/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

開削調査箇所(南側)における各種観察・分析・測定結果(2/2)

地層区分	ユニット区分	火山ガラスの屈折率測定・主成分分析	重鉱物の屈折率測定・主成分分析※1	斜長石の屈折率測定・主成分分析	硬度測定※2
盛土	-	・洞爺火山灰(Toya)に対比される火山ガラスが混入する	-	-	・Ts3aユニット及びTs3bユニットに比べ、硬度指数が小さい傾向が認められる ・M1ユニット、Ts3aユニット及びTs3bユニットに比べ、硬度指数のバラつきが大きい傾向が認められる
斜面堆積物	Ts3 Ts3b	・洞爺火山灰(Toya)に対比される火山ガラスは認められない	・屈折率は、M1ユニット、Ts1ユニット及びTs2ユニットと概ね同様な範囲にブロードな頻度分布を呈し、特有なピークは認められない ・主元素組成の各分布範囲は、M1ユニットとM1ユニットに挟在するTs1ユニット及びTs2ユニットと概ね同様である	・主に中性斜長石の範囲を示すものが多い	・M1ユニット及び盛土に比べ、硬度指数が大きい傾向が認められる
	Ts3a	-	-	・主に中性斜長石の範囲を示すものが多い	・M1ユニット及びTs3bユニットの中間の硬度指数を示す傾向が認められる
海成堆積物	M1	・洞爺火山灰(Toya)に対比される火山ガラスは認められない	・屈折率は、Ts3bユニットと概ね同様な範囲にブロードな頻度分布を呈し、特有なピークは認められない ・主元素組成の各分布範囲は、Ts3bユニットと概ね同様である	・主に中性斜長石の範囲を示すものが多い	・Ts3aユニット及びTs3bユニットに比べ、硬度指数が小さい傾向が認められる
斜面堆積物	Ts2	・洞爺火山灰(Toya)に対比される火山ガラスは認められない	・屈折率は、Ts3bユニットと概ね同様な範囲にブロードな頻度分布を呈し、特有なピークは認められない ・主元素組成の各分布範囲は、Ts3bユニットと概ね同様である	・主に中性斜長石の範囲を示すものが多い	・Ts3bユニットと同様な傾向が認められる
	Ts1 (Ts1a及びTs1b)	・洞爺火山灰(Toya)に対比される火山ガラスは認められない	・屈折率は、Ts3bユニットと概ね同様な範囲にブロードな頻度分布を呈し、特有なピークは認められない ・主元素組成の各分布範囲は、Ts3bユニットと概ね同様である	・主に中性斜長石の範囲を示すものが多い	-

青書きはTs3ユニットと異なる特徴
朱書きはTs3ユニットと同様な特徴

※1 開削調査箇所(北側)の東側に位置する追加調査箇所にも認められるM1ユニットに挟在する斜面堆積物についても、当該測定・分析を実施しており、Ts3bユニットと同様な特徴が認められる(詳細は、補足説明資料1.1章参照)。
 ※2 硬度測定箇所のうち、以下の測線(計6測線)に認められるTs3aユニットについては、既往評価ではTs3ユニット及び遷移部のうち、Ts3ユニットとしていた。このため、今回硬度測定結果については、改めてTs3aユニット及びTs3bユニットとして再整理している(詳細は、補足説明資料1.1章参照)。「Ts3aユニットと既往評価のTs3ユニット(遷移部)の分布範囲に関する考え方の違い」については、P196参照。
 ・測線:SKB-TW⑥~⑦
 ・測線:SKB-FF③~⑤
 ・測線:SKB-CS①

(1)地層区分及びユニット区分

開削調査箇所(南側)における各種観察・分析・測定結果の掲載頁

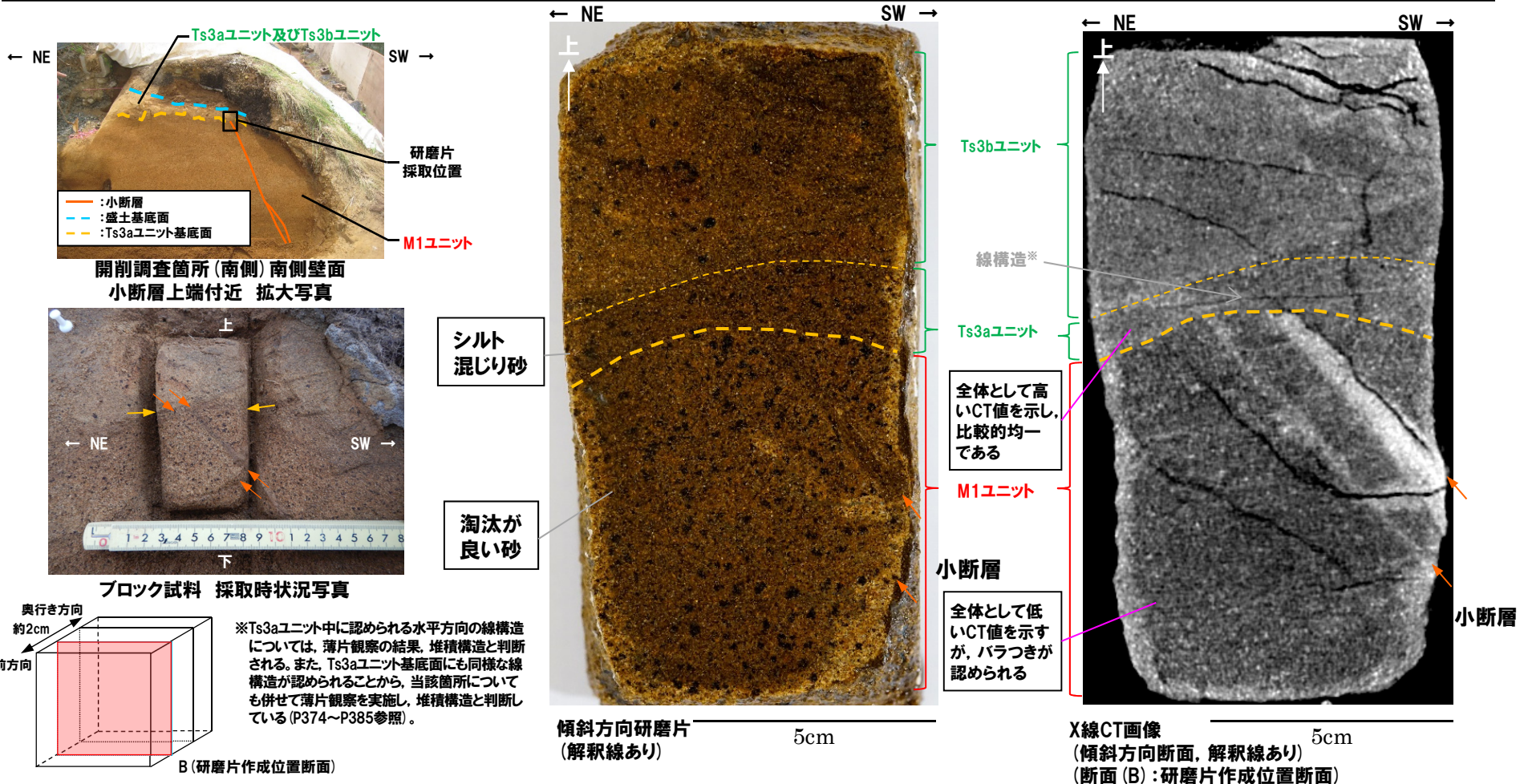
地層区分	ユニット区分	研磨片観察・X線CT画像観察	薄片観察	礫種・礫の形状調査	火山ガラスの屈折率測定・主成分分析	重鉱物の屈折率測定・主成分分析	斜長石の屈折率測定・主成分分析	硬度測定	
盛土	—		・P243～P245 ・P246～P247 ・P254～P255 ・補足説明資料1.1章	—	・P266～P269 ・P272～P273	・P266～P269	—	・補足説明資料1.1章	
斜面堆積物	Ts3	Ts3b	・P240～P241	・P243～P245 ・P248～P251 ・P256～P257 ・補足説明資料1.1章	・補足説明資料1.1章	・P266～P269 ・P272～P273	・P266～P269 ・P274～P277	・P279～P284	・補足説明資料1.1章
		Ts3a	・P240～P241	・P243～P245 ・P250～P251 ・P258～P259 ・補足説明資料1.1章	—	—	—	・P279～P284	・補足説明資料1.1章
海成堆積物	M1	・P240～P241	・P243～P245 ・P252～P253 ・P260～P261 ・補足説明資料1.1章 【EPMA分析】 ・補足説明資料1.1章	・補足説明資料1.1章	・P266～P269 ・P272～P273	・P266～P269 ・P274～P275	・P279～P283 ・P285	・補足説明資料1.1章	
斜面堆積物	Ts2		・P243～P244 ・P263～P264	・補足説明資料1.1章	・P266～P269 ・P272	・P266～P269 ・P274～P277	・P279～P283 ・P286	・補足説明資料1.1章	
	Ts1 (Ts1a及びTs1b)		・P243～P244 ・P265	・補足説明資料1.1章	・P266～P267 ・P269 ・P272	・P266～P267 ・P269 ・P274～P277	・P279～P283 ・P286	—	

(1)地層区分及びユニット区分

③-1 各種観察・分析・測定結果-研磨片観察・X線CT画像観察(1/2) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

- M1ユニットとTs3aユニットの層相境界付近について、研磨片観察及びX線CT画像観察を実施した。
- 研磨片観察及びX線CT画像観察におけるM1ユニットとTs3aユニットの層相境界 (Ts3aユニットの基底面) 設定の着目点は以下のとおり。
 - ・研磨片観察においては、淘汰が良い砂とシルト混じり砂の境界部
 - ・X線CT画像観察においては、全体として低いCT値を示すが、バラつきが認められる箇所と全体として高いCT値を示し、比較的均一である箇所の境界部
- 研磨片観察結果及びX線CT画像観察において設定した層相境界は調和的であり、層相確認による特徴と同様である。
- 研磨片観察において、Ts3bユニットはシルトが多く認められ、Ts3aユニットはTs3bユニットに比べ、ややシルトが少ない特徴が認められる。
- X線CT画像において、Ts3aユニットは、M1ユニットとTs3bユニットの中間的な特徴が認められ、研磨片において確認されるシルト混じり砂に対応する。



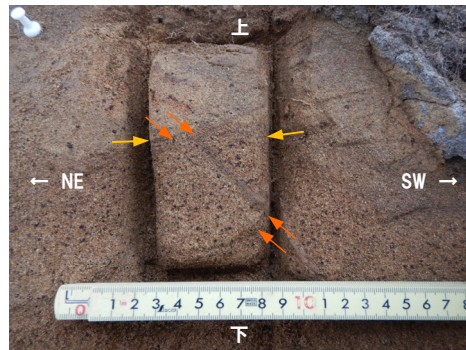
(1)地層区分及びユニット区分

③-1 各種観察・分析・測定結果-研磨片観察・X線CT画像観察(2/2)-

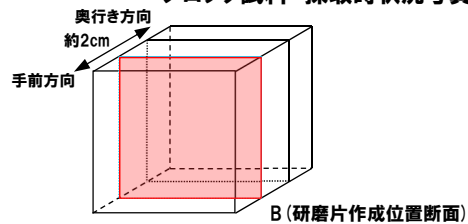
一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側)南側壁面
小断層上端付近 拡大写真



ブロック試料 採取時状況写真



傾斜方向研磨片
(解釈線なし) 5cm



X線CT画像
(傾斜方向断面, 解釈線なし)
(断面(B): 研磨片作成位置断面) 5cm

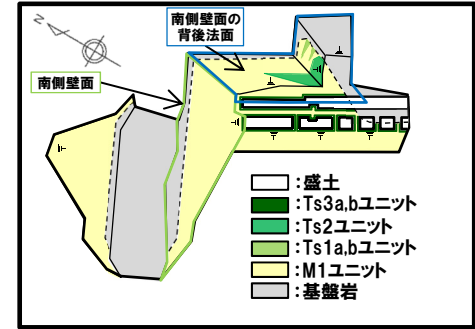
余白

(1)地層区分及びユニット区分

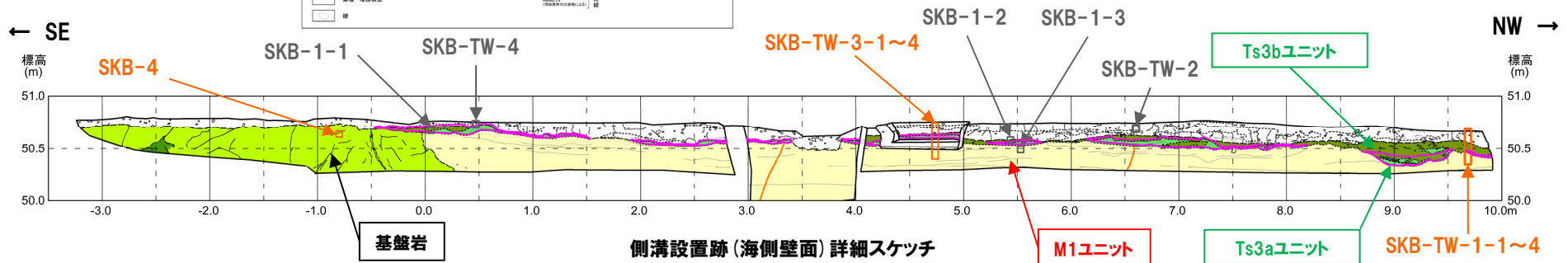
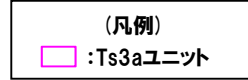
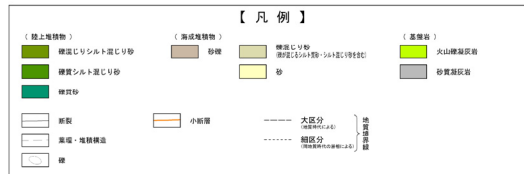
③-2 各種観察・分析・測定結果-薄片観察(1/3)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)

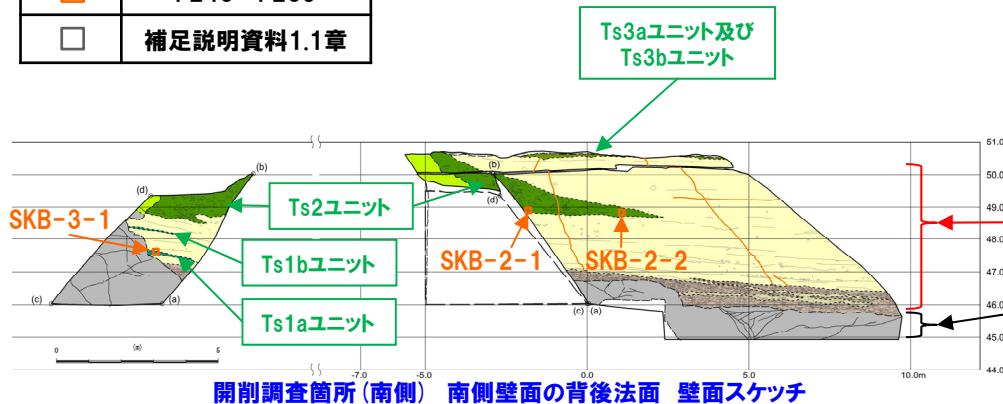
- 各ユニットについて、より微細な特徴を明らかにするため、薄片観察を行った。
- 対象箇所は以下のとおり。
 - ・盛土, Ts3bユニット, Ts3aユニット及びM1ユニット
 - ・基盤岩(旧海食崖)である火山礫凝灰岩
 - ・M1ユニットに挟在する斜面堆積物であるTs1aユニット及びTs2ユニット
- 薄片観察の結果、各堆積物及び盛土には異なる特徴(次頁参照)が認められる。



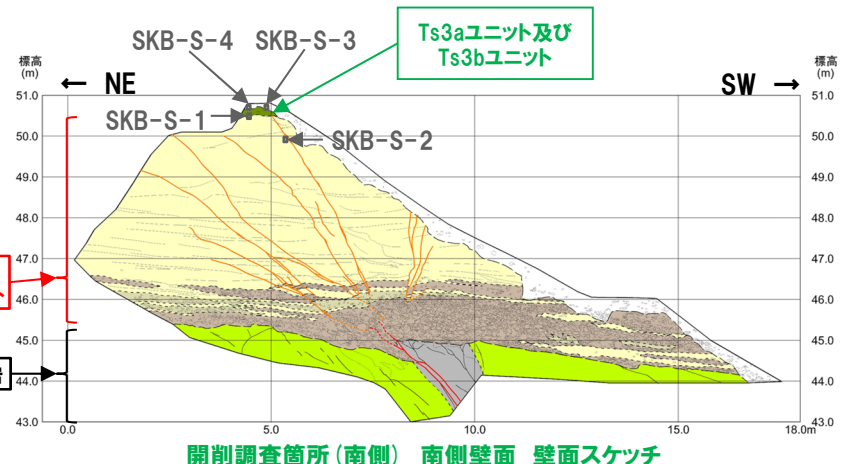
開削調査箇所(南側)平面模式図



凡例	掲載頁
□	P246~P265
□	補足説明資料1.1章



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ



開削調査箇所(南側) 南側壁面 壁面スケッチ

(1)地層区分及びユニット区分

③-2 各種観察・分析・測定結果-薄片観察(2/3)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

○南側壁面及び南側壁面の背後法面における薄片観察の結果、各堆積物及び盛土の特徴を下表に整理した。

薄片観察結果

地層区分	ユニット区分		特徴
盛土	-		<ul style="list-style-type: none"> 粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が薄片試料全体に認められ、局所的に卓越して多い箇所が認められる 粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められない箇所が不規則に分布する 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じる 盛土敷均しの影響を受けているものと考えられる粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物からなる薄層及び腐植土が認められる 水平方向に連続する空隙が認められる 植物片が認められる
斜面堆積物	Ts3	Ts3b	<ul style="list-style-type: none"> 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる 粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ、局所的に濃集する 旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の垂角～垂円礫が認められる
		Ts3a	<ul style="list-style-type: none"> 丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる 粒子間に粘土鉱物及び少量の泥粒径の碎屑物が認められる
	Ts2		<ul style="list-style-type: none"> 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる 粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められる 旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の礫及び岩片が多く認められ、安山岩及び流紋岩等の円礫が認められる
	Ts1		<ul style="list-style-type: none"> 旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫及び粘土鉱物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物がわずかに混じる
海成堆積物	M1		<ul style="list-style-type: none"> 丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、粒子の縁に泥粒径の碎屑物がわずかに認められる 粒子間は空隙となっており粘土鉱物は認められない 酸化鉄の沈着が認められる



(次頁へ続く)